



亥の子について

1. 「亥の子」とは

この地方に伝わる「亥の子」は、秋の恵み『五穀豊穡』に感謝し、これらをもたらしてくれた「地の神」を「亥の子石」で地面をたたいて祀る」という伝統行事です。また、「地の神の祀りごと」であると同時に、いくつかの願い事、冬の訪れを知らせる季節の行事でもあります。

2. 願い事とは

願い事は、亥の子の《うた》に込められています。「亥の子」という行事は、現在でも県の内外に広く残っているようですが、《うた》の節や詞の内容は、地方や地域によってかなり異なります。

3. 数えうた

この地方に伝わる《うた》は、「数えうた」の形式となっています。その内容は、『豊作を喜ぶ』とともに、併せて『一家の無病息災及び家運隆盛』を祈願するものとなっています。

4. 子どもの行事

「亥の子」は、子どもたちによる、楽しいお祭りとして伝えられてきました。やり方は、少子化や子どもの安全に対する問題など、社会情勢・社会的関心事の変化に伴い、現在の形となっています。

5. 昔の「亥の子」

昭和 50 年代ごろまでは、小学生の男の子たちによる、夜の行事でした。子どもたちは“ちょうちん”で地面を照らしながら歩き、かねや小太鼓、子どもたちのうた声、“亥の子石”を搗く音が、夜遅くまで響いたといわれています。

6. 御幣についてのお願い

配られた“御幣”は、神棚に供えるか、高い場所に飾り、開けて 1 月に行われる「とんど」の火で焼却するのが最良とされています。できるだけ丁寧に扱われますよう、ご配慮をお願いします。



亥の子のうた(中島回多奈版)

ぼたん からじし
牡丹, 唐獅子, よいどんどん

ぼたん からじし
牡丹, 唐獅子, よいどんどん

亥の子, 亥の子, 亥の子の餅搗かん猪は

鬼産め, 蛇産め, 角の生えた子を産め,

一で, 儀踏ん張って

二で, にっこり笑うて

三で, 酒を造って

四つ, 世の中よいように

五つ, 出雲の大社

六つ, 棟を建ち広め

七つ, 何事ないうちに

八つ, 屋敷を建ち広め

九つ, ここに蔵を建て

十で, とうがんぶちあった

はんじょう 繁盛せい 繁盛せい!!!

ぼたん からじし
牡丹, 唐獅子, よいどんどん

ぼたん からじし
牡丹, 唐獅子, よいどんどん